

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成23年10月24日(月)

2 出席委員(10名)

委員長 河西 敏郎

副委員長 齋藤 公夫

委員 中村 正則

森屋 宏

高野 剛

大柴 邦彦

渡辺 英機

樋口 雄一

浅川 力三

久保田 松幸

欠 席 なし

地元議員 保延 実 山田 一功 木村富貴子(甲斐市)

3 調査先及び調査内容

(1) 【消防防災航空隊】

○調査内容



※消防防災航空隊において、防災ヘリ等についての概要説明の後、施設内の視察及びヘリの試乗を行った。

(2) 【意見交換会】

- ① 出席者
- ・南甲府警察署管内防犯パトロール団体等代表者
 - ・南甲府警察署担当者

- ② 内容
- ア 概況説明
「防犯パトロール団体等の活動について」
- イ 意見交換
「安全・安心なまちづくりについて」

主な意見

議 員)

ただ今皆様のご意見を伺い、様々な角度から取り組んでいただいて、山梨県だけではなく、これからの日本を背負って立つ子供たちを守っていただいているということに対して敬意を表し、感謝申し上げます。若い方が中心の団体もあるが、平均年齢70歳という団体もあり、比較のお年寄りの方が一生懸命やっただいて大変ありがたいと思っている。先程大阪の池田小学校の話が出た。大変痛ましい事件であった。皆様方が取組の中で一番真剣を使うのはどんなところかお聞きしたい。

出席者)

毎朝パトロールをする際、登校中の子供たちに対し助言をすることがあるが、子供たちから煙たがれることがある。子供たちには子供たちのルールがある。我々もパトロール活動をしていてできるだけ空気のような存在であろうとするが、自分の子供や孫たちが関わっているの、いろいろと口を出したくなってしまふ。しかし、あまりしつこくすると子供たちから嫌がられてしまふ。その辺のところ難しい。近からず遠からずとところで活動しようとしているが、年の功ではないがどうしても口を出したくなってしまふ。その辺のところを何とかして欲しいと学校にいても、それに対して言えないところがある。我々の団体ではパトロール活動に誰でも参加できるので、中には子供に対していろいろと世話を焼く人もいる。我々としては、あくまでも主体は子供で、その子供が安全で安心して学校に登下校できるよう、そのことだけに協力してほしいと呼びかけている。小さなことであるが、そのような問題がある。

出席者)

活動していて一番神経を使うことは、自分が見守り活動をしている現場で、実際に事故が起きたら大変だということである。長い活動のなかでは、大人がいても実際に防ぐことができない事故等が発生する可能性もあるかもしれないが、自分が活動している現場で事故が発生しては困る。だから、現場に立つときはいつも神経を使っている。

出席者)

山城地区は非常に広いので、5つの通学路を指定して、一番遠くから通う子供と一緒に登校することを習慣としている。やはり一番気を遣うところは、自分のところで事故を起こさないようにすることである。実際見ていて、子供たちはきちんとルールを守っている。ルールを守らないのは大人の方である。通学路は大通りを避け細い道路を選んでいるが、車1台通るのがやっとの道をスピードを落とさず走行する車がある。

我々は子供に聞こえるように大きな声で「車が来るよ」と呼びかけをしている。

出席者)

子供と我々との間には問題はない。というのはその子供が小さい頃から活動をしていて、顔見知りになっているので、心配はない。逆に、先程話が出たように、グリーンベルトや時間帯で進入が禁止されている道路に車が通行してくる。時には、進入してきた車に対しバックして戻るように言って、トラブルになったケースもあり、南甲府警察署の生活安全課の方に来てもらったこともあった。大人がそういうことをしていると子供たちにも悪影響を与えてしまう恐れがある。

議 員)

日頃から皆さまには子供たちのために活動していただき感謝申し上げます。実は私も地域の活動に参加し、月1回活動している。

そこで、各ボランティア団体間で交流は行っているのか。私も地元で消防団に所属しているが、消防でそのような活動を行うきっかけは何だったのか。青色パトロールの回転灯は自費で設置したのか。以上3点について伺う。

出席者)

発足については、旧田富町消防団のOBが中心となって組織を立ち上げた。その後、現役消防団員であるわれわれが、県大会で優勝したときのメンバーということもあり、何とかしようということで活動を始めた。それから、活動がだんだん認められて、中央市に合併後も活動を続けている。また、青色パトロールの回転灯については、警察署から中央市に対し1台分寄付をしていただいた。

議 員)

警察での青色パトロール車の取扱いはどうなっているのか。

出席者)

青色パトロール車は講習を受けなければ運転することができない。

講習を受講すると、警察から証明書が発行され、それを陸運局へ持って行くと承認されるという仕組みになっている。回転灯については平成21年度に24台分購入し、各警察署から所管する各防犯団体に声をかけて配付している。

出席者)

甲府市では100%実費でやっている。育成会の非行対策ということで以前から車を使ってパトロールを行っていた。パトロールの際、回転灯がないために逆に不審者と勘違いされ、声をかけると逃げられてしまうという事が何回かあった。

そこで、平成17年に青色回転灯が設置できるという法律ができたため、何とかそれを形にしたいということで、また、地域が陸運局に近いということもあり、青色回転灯を設置した。しかし、青色回転灯はまだ普及していないと感じる。それは、手続きの煩雑さがあるのではないか。ついては、手続きの方法が詳しく学べる講習会などを開催していただきたいと思っている。夜、暗い中で回転灯が回ると随分遠くまで見渡すことができる。

この回転灯がもっと普及すれば犯罪の抑止力につながるのではないかとと思っている。

出席者)

各種団体との交流については、行事のたびに要請がある。例えば子供クラブで餅つき大会を開催した際、連合会に要請があり、参加の団体に指示を出す。常時十数名が活動する状況をつくっている。

また、これは警察への要望であるが、東京電力による一斉停電の際非常に困ったことがあった。学区の中で指定通学路を子供たちは歩く際、交差点のところに保護者がたち、保護者が立てないところには見守り隊の隊員が立つことになるが、停電の際は信号が点灯し

なしたため、通行する車がなかなか停車してくれず困ってしまいました。地域に信号のある交差点があるが、信号は車優先になっている。子供たちの通学路にある信号機については歩行者用の信号を設置していただきたい。

出席者)

3月の東日本大震災のとき、ちょうど子供たちの登下校の時間帯と重なった。

防犯だけでなく、防災という面も新たに加えた通学路の見直しを行う必要がある。それに対して、われわれの活動がどこまでできるか、子供110番の家の方も含め、災害が起きたとき、どうやって子供を守るか、そういった意識を育てていくことも大事ではないか。

出席者)

団体との交流についてであるが、地域の中での各種団体との交流はあるが、今回のような地域外の団体との交流はゼロに等しい。例えば、こういった問題については他の団体はどういった対応をしているのかということを知ることができる組織が欲しい。我々からも前々からそのような要望をしているが、防災無線の許容範囲も地域によって違うし、我々の地区には町内放送もあるが、それについても使うことが許される範囲が決められている。この範囲は現在でも昔に決められた内容のままである。本当はその範囲を変更して欲しいと思っている。

議員)

P T Aとの関係はどうか。また、最近子供が挨拶をしなくなったというようなことを耳にするが、その点はどうか。

出席者)

われわれの地区では子供はみんなあいさつをする。それは習慣だと思う。大人から進んで声をかけることが大切。

出席者)

我々の地区でも子供が挨拶しないとういことは絶対はない。学校の校長先生の意気込みが違う。校長自ら、子供が登校する前から我々の活動に参加して、子供たちに積極的に声をかけている。

出席者)

我々の地区の場合は、小学校において挨拶運動を実施しており、我々の呼びかけに必ず応えてくれる。また、P T Aとの交流については、P T Aの方も青色パトロール車に同乗している。また校長も我々の協議会の会員になっており、会議等で交流を行っている。

そういう意味では、われわれの地区では現在、P T A、地域、学校との連携を深めている段階であると考えている。

出席者)

我々の地域では、あいさつについては活動した当初は我々から声をかけることが多かったが、活動も5年を経過し、最近では子供からも進んで挨拶されるようになった。

子供が挨拶しないのは、大人が挨拶しないのが原因。大人から進んで見本を示すことが大切。P T Aとの交流については、18年の発足から、火曜日、木曜日に父兄が2人組になって揃いのジャンパーを着て3チームに別れ15時頃から約2時間パトロールを行っている。たとえ雨天でも活動を続けている。

出席者)

P T Aとの交流であるが、我々の会は会員数が多いということもあり、年に2回、春と秋に全体会を開催している。春の会の時には小学校の体育館を会場としている。その会の

1 コマとして子供たちとの交流の時間を設けている。

甲府市では4年生になると合唱の交流会が開催されるが、その頃を見計らって春の会を開催する。その時期には授業参観も開催されるので、保護者も学校に来る。体育館では子供が前に座り、後ろに保護者席とスクールガード隊席が設定される。われわれはその際、普段活動している揃いの服装をしているので、保護者に対し活動をアピールできる。そこで、合唱を聴いて、児童の代表、会の代表それぞれが、挨拶を交わすという機会がある。

P T Aとの正式な交流については、我々の会の役員の中にP T Aの代表が入っているので、その方がP T Aの役員会で会の活動の様子を紹介している。そういったパイプづくりができていますので、我々の会が年間どういったことに力を入れて活動しているかは理解していただいている。そういったこともあり、我々の地区では子供たちへの挨拶だけでなく、親同士でも挨拶が広がっている。

出席者)

P T Aに関しては、私自身もP T Aに所属している。例えば、田富小学校、中学校では不審者情報があるとメールで保護者に伝えている。そのメールを会員にメール送信し、情報があつた地区を重点的に巡回するようにしている。

我々の活動は他の団体と違い、夜間活動することが多いため、小学生よりも中学生に声をかけることが多い。公園などにたむろしている中学生に対し注意することが怖いと思うこともある。どこまで踏み込んで良いか判断に迷うことがある。

これは警察への要望であるが、何か問題が起きたときに直接連絡できる直通の連絡先を設けてもらおうと、情報提供がスムーズに行うことができる。

もう一つは、教育委員会になると思うが、今は塾に通っている子供も多くいて、夜10時以降でも多くの子供を見かける。条例で夜10時以降であれば深夜徘徊になると思うが、それを注意もできず、コンビニなどでは多くの子供を見かける。夜10時以降は塾は行かせないというようなことをお願いしたい。そうすれば、注意しやすくなる。

議 員)

先程の話の中で他地域との連携について、他地域がどういった対応をしているのか知りたいという話があつたが、皆さまの団体ではそういったことが必要かどうか、お聞かせ願いたい。

出席者)

普段他地域との交流がなく、中央市においても立ち上げの会議があつたが、1回開催されただけ。今回他の地域の方々と話ができて、いろいろな話が聞けたので、今後もこういった交流があればありがたいと思う。

出席者)

県の指導により平成23年1月に大学生が「やまなし守り隊」を結成し、若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業の実施団体として警察庁から指定されるなど、いろいろな団体が活動しているが、系統立って活動していない。ぜひ各団体との情報交換を行えるような、系統立った仕組みができるよう、県や市町村にお願いしたい。また、現在、警察は組織に入っているが教育委員会は入っていないので、構成メンバーをきちんとしてもらおう、思いつきではなく、継続的に目標をもってたつていただきたい。

出席者)

他の地域との交流は将来的には必要と思うが、例えばこういった会議を開催していただいても、皆さん仕事があるので平日の日中にはなかなか参加することができない。それがかえって負担になってしまうので、継続していくのは難しい。必要だとは感じるが、なかなか参加しづらい状況がある。

出席者)

ぜひやってもらいたいと思うが、現状だと交流会のまだ前の前の段階と思う。活動を広めることにぜひ力を入れていただきたい。

出席者)

隣町くらいとなら交流したいと思う。基本的なスタンスとしては、それぞれの地区の特色もあり、難しいところもあると思うが、勉強になることもあると思う。つい最近も警察の方で安全・安心の大会があったが、そういうところに参加することによって、「ああ、こう事例があるのか」と参考になることもあった。そういった大会を通じて、PR活動ができれば良いと思うし、県、県教育委員会、警察本部にはそういった交流の場を設定して頂きたい。

出席者)

甲府市の場合は共通であるが、平成20年6月に、自主防犯ボランティア連絡協議会を発足させている。そこから連絡があり、会員が参加するようになっているが、そこへは私たちの会からも毎年数名参加している。その会では中央市の団体からも実践発表を行ってもらったことがある。そういった機会を通じ、他団体の活動状況が理解できる。我々の団体も実践発表を行った。よって、甲府市においては足並みをそろえた活動ができている。

議 員)

日本の場合、NPOやボランティアというのは時間が浅い。皆様方が言うとおりの、自分のできる時間に自分のできる範囲のことをすることが基本であり、これをあまり系統立てて組織化してしまうと窮屈になりすぎて、そこから出ていってしまう人が多くなるというのが、阪神淡路大震災以降、研究者がそのような発表をしている。だから、窮屈ではない組織、しかし情報は欲しいということで、情報の連絡協議会、会長、副会長をつくってということをして日本人はやりたがるが、そうすると意外とボランティア組織とかNPOは崩れてしまうという研究があるので、お聞きした。皆さまがやられていることは、本当に一番ベースの大切なことであると思う。ただ、情報だけは、どこでこういう事例があったということは、皆さまに情報提供されるような仕組みができればよいと思った。

出席者)

日頃から子供たちのご指導等に感謝する。我々の地域では降雪により登校時間、下校時間が変更になる場合があるが、そういったときの緊急連絡体制はどうなっているのか。

出席者)

玉穂南小学校については、会の事務局を学校で受け持っていていただいているので、その辺の連絡については怠りなくやっている。ただし、急な災害等については学校でも対応できないところがあるので、各隊員の理解を得て協力いただいている。

出席者)

田富小学校の場合はPTAを中心とした防犯委員会が開催され、学校の授業の終了時間の学年別一覧表がでている。ただし、緊急的なことには対応できていない。なぜかという、携帯電話を使いこなせる人が少ないためである。

出席者)

先程いったとおり、学校から保護者に対してメールで情報が入る。その情報を我々が会員にメールで伝える。

出席者)

会員の中にメールが使いこなせないご年配の方が多くいる。「まもるメール」に登録し

ている保護者には、緊急の場合学校からメールが送信される。ただし、見守り活動されている方については緊急の場合の情報伝達手段は確立されていない。

出席者)

老人クラブ連合会のスクールガード隊の方に情報が伝達されることになっている。

出席者)

登下校時間が急に変更になることはあまりないが、3月11日の地震は下校時と重なった。子供たちは校庭に避難し、学校では直接児童を親に引き渡したいが、電話が使えない中、どうやって連絡をとるのかということに苦勞した。われわれの地区にはいくつかの町内放送設備があるが、放送を担当する人に連絡がつかず、町内放送も使えなかった。どうやって伝達手段を確保したかというところ、たまたま、消防の広報車が空いていたため、その広報車に巡回していただいた。16時くらいから巡回を始め、18時半頃引き渡し完全に終了した。そこで一番感じたのは、防災無線が有効に利用できればということであった。甲府市には防災無線があると思うが、地域ごとに放送できる構造になっていないため、緊急の際も放送が制約されるとのことであった。防災無線がより有効活用されるような仕組みになるようお願いしたいと考えている。



※中央市立玉穂総合会館において、意見交換会を実施した。